

ふくしま共創チーム ×

大学生と運送事業者が、
《福島で働くこと》を本音で語る。

物流 frankly speaking

前編 **物流魅力発信座談会** 2026.7.1

座談会の模様をわだち2回にわたって掲載します

田母神専務のあいさつ

皆さん、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。
座談会ということで、福島で働くということと物流がどうマッチングするか？それを主なテーマとしながら、いろいろご意見を伺っていきたいなと思っています。
福島県から昨日、人口の統計が発表されましたが１７０万を切ったということで、県の動向もさることながら、我々トラック業界も人手不足という大きな課題を抱えております。今回は福島県のふくしま共創チームに参画させていただいた縁で、物流を担う立場からどのような取り組みができるかという視点で、令和８年度の県の福島連携共創推進補助金の一部を活用して実施させていただく座談会でございます。
トラックというのは皆さんの生活、産業、あるゆるものの根本的な血流だと思っています。物流が滞ったら生活も産業活動もままならないということです。ですから、どうやって維持していくか？何よりもトラックドライバーさんには自分たちが日本を支えている、経済を支えているんだという誇りをもって、活躍してもらう局面を作りたいということです。しかし、業界としては裏方の仕事ですから、どうしても夜間の仕事、長時間の仕事、きつい仕事も混在しています。全てがバラ色のような仕事ではないんですが、省力化や安全運転の技術革新も進んでいますから、そういったこともアピールしながら、物流業界で働いてみたいと思う人が一人でも増えるように、当協会としては今後も取り組んでいきたいと思いますので、よろしくお願いします。



田母神 正広
福島県トラック協会
専務理事
オブザーバー



ファシリテーター 赤坂 利彦

座談会スタート

>赤坂:
座談会ですから、自分はこう考えるとか、自分の友達はこう考えてますよとか、そういう価値観でお話ができたらなと思います。事業者の方々は、多分学生さんの価値観と現実の自分たちがやっていることの間に差があるということを感じていただければと思います。よろしくお願いします。
フリップの質問に対して１つずつお答えいただきながら進めていきます。最初にアイスブレイクとして「最近届いて一番うれしかったものは？」自己紹介を兼ねながら答えてもらえればと思います。

物流 frankly speaking 最近届いて一番うれしかったものは？

>赤坂:
では、専務からお願いします。

>田母神専務:

私は「ハンディチェーンソー」です。チェーンソーの小さいやつですね。庭木の伐採に非常に役に立ちます。私は今住んでいる家は小さいんですけれど、実家が農家をやっていまして、木がいっぱいあるんです。今までノコギリで切っていたんですが、これが大変で。これを買ったらサクサク切れるようになって、非常に助かりました。通販で買いました。

>梨本:
福島大学の梨本涼太と申します。

私は「プロテイン」です。筋肉はそんなに大きくないんですけど、健康のために中学校くらいからずっと飲んでいて、毎日欠かせないものなので、届いて嬉しかったです。

>宗形:
福島大学の
宗形杏美と申します。

私が最近届いて一番嬉しかったのは、「アーティストのライブTシャツ」です。5月にライブに行ってTシャツを買ったんです。でもそのライブが本当に良すぎて、「もう一着買おう！」となって、追加で注文しました。最近届いて、ライブの時の熱量が思い出されて、すごく嬉しかったです。
(赤坂：どなたのですか？)
Mr.Childrenです。すごく良かったです。

>高橋部長:
伊達貨物運送の高橋です。

よろしくお願いします。
私は子供たちから母の日でプレゼントが届いたのが非常にうれしかったです。子どもたちが学生の間は投資をしてきましたから、学費を散々払ってきたので、あんたたちほんとに働いたら返してよ！(笑)と言っていたら返してくれたので。みなさんも働くようになったら返してあげてください(笑)
(宗形：返します(笑)) 以上です(笑)

>野村:
伊達貨物運送の野村です。

よろしくお願いします。
私は「家具・家電」です。6月に引越したばかりで、これから新生活が始まるんだというワクワクとともに、届いたのが嬉しかったです。
(赤坂:ちなみに何を買ったんですか?)
もう全部買い揃えたんです！通販で。

>吉田社長:
須賀川東部運送の吉田雅弘と申します。

よろしくお願いします。
私は、最近「寝袋」を買いました。今年ちょっとチャレンジしたい山がありまして。登山の世界では「100g減らすのに1万円かかる」と言われるほど軽量化が大事なんです。軽くて温かい最新の寝袋を通販で買いまして。頑張りたいと思います。

>赤坂:
皆さんが書いてくださった「届いて嬉しかったもの」ですが、皆さんの元にそれが届いたということは、誰かがそれをどこかから運んできたということですね。日常生活の中で、誰もが物流と関わっているんだというイメージを持っていただければと思います。



テーマ **物流って？福島で働くって？**

福島県では、人口減少や若い世代の県外流出が続き、地域を支える人材の確保が大きな課題となっています。また、生活や経済に欠かせない、物流・トラック運送業界においても人材不足が進んでおり、若い世代には仕事内容や働き方が十分に知られていない現状にあります。当座談会では、雇用創出や定着に向け、魅力ある物流・トラック運送業界とするため、学生の皆さんと運送事業者が、それぞれの立場で、福島で働くこと、会社選びについて、本音で語り合いました。

物流魅力発信座談会
日時／令和8年7月1日（水） 午後1時～午後3時30分
場所／イタリアンキッチン VANSAN 福島鎌田店

ふくしま共創チーム

公益社団法人 福島県トラック協会は、福島県が主催する人口減少対策・地方創生プロジェクトである「ふくしま共創チーム」に会員（パートナー）として参画しています。「ふくしま共創チーム（正式名称：ふくしま創生・人口戦略 官民連携・共創チーム）」は、福島県内の深刻な人口減少問題に「オール福島」で立ち向かうため、2025年7月16日に設立された官民連携のプラットフォームです。行政、企業、大学、金融機関、メディア、民間団体などが一体となり、若者や女性の県外流出抑制、地域定着に向けた課題の解決を目指しています。



トラックの荷積み・荷下ろしを行う現場を実際に見ながら、物流の仕事について現場のリアルな声を聞きました。





帝北ロジスティックス
運送第一事業部
大瀧　浩 さん







ふくしま共創チーム ×



物流 frankly speaking

「福島で働くこと・暮らすこと」とは？

＞赤坂：
ではこれから、資料を使って「福島で働くこと・暮らすこと」について考えていきましょう。手元の資料にグラフがあります。福島県の人口は、令和7年10月1日時点で約171万人。最新の推計ではすでに170万人を切っています。2050年には、あと30年足らずで125万人まで減るという予測です。
これは大正14年くらいの水準まで落ちるということです。日本全体でも、去年は91万人人口が減りました。東北のどこかの県が一つ分、1年で丸々なくなってしまうような規模です。宗形さん、実際に福島で暮らしてみて、人口減少のイメージはありますか？



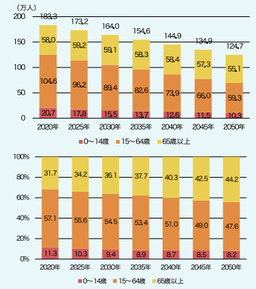
＞宗形：
そうですね。高齢化は感じますね。おじいちゃん、おばあちゃんの家の周りでも、地域活動の維持が大変になってきている現状があります。昔のようにいかなくなっている場面が増えていると思います。

＞梨本：
自分は、部活動がなくなってしまったり、子どもの人数が減って学校が統廃合されたりというのを身近な経験として感じます。

＞赤坂：
お友達に福島にもどっていない人はいますか？

＞宗形：
大学進学や就職のタイミングで県外に行く人は結構います。

3区分別将来人口推計・構成比【福島県】
◎将来推計人口



（資料）国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」

＞梨本：
今は就活の時期なんですけど、友達と話していても、県外から大学で福島に来た子は地元に戻る選択をすることが多いですし、逆に自分のように福島で育っても「一度県外に出よう」と考える人は多いです。かなりホットな話題ですね。

＞高橋部長：



非常に残念ですね。福島で学んで、そのまま就職してもらえないというのは寂しい気持ちになります。
でも、将来的に戻ってきてくれればいいなと思います。ただうちの子供もそうですが、女子は一度外へ出ると結婚などでなかなか戻りにくかったりもします。まずは福島県として魅力のある企業であったり、地域を育てていかないと、若い人の流出は止まらないのかなと感じます。

＞吉田社長：
やはり、働く場所がしっかりないと、人口は維持できないですよね。



私も子供が二人いますが、親としては「帰ってこい」とはなかなか言いづらい面もあります。人が生活していく上で「働く」ことがまずベースにありますから、そこに魅力を感じてもらえないと、どんどん人口は流出していってしまうと思います。

＞赤坂：
では、視点を変えて、福島の良いところ、暮らしやすさについてはどうですか？

＞宗形：
福島は自然が豊かで、特産品もたくさんあります。そして、それを大切にしている「人の熱意」があるのが良いところだと思います。各地に行ってみて、営みを持って暮らしている人を見るとそう感じます。

＞梨本：
四季を感じられるのが魅力ですね。浜・中・会津、それぞれ特性があって、会津は歴史があったり、中通りは交通の便が良かったり、いわきは海が綺麗だったり。色々な景色が見られるのは福島の強みだと思います。

＞野村：



人との繋がりが深いところですね。祖母が畑をやっていて、野菜を近所に配ったり、逆にもらったり。
田舎ならではの温かさがあって、会社でも「さくらんぼ食べな」って皆で分け合ったり。そういう田舎ならではの温かさ、関係性は福島の良い雰囲気だなと思います。

＞赤坂：
一度福島を出たそうですが、どうして福島にもどってきたんですか？

＞野村：
やっぱり、ビルに囲まれるより山に囲まれている方がいいなと思って。田んぼに水が張った時の、光が差した景色とか。ビルはどこにでも立っていますけど、山や川が作ってくれる景色はここでないと見られない。そこに惹かれて戻ってきました。

＞赤坂：
採用を通じて、若い人が仕事や会社に求めているものってどんなものだと思いますか？

＞高橋部長：
生活の糧なので、給与面や働き方を重視する点はこれからも変わらないのかなと思います。
あと、話戻りますけど、福島の住みやすさとして、私自身4人子どもを育ててみて、子育てをしやすいのが福島だと思います。アスファルトじゃなくて地面、あぜ道を歩いて、空気を感じて、通学できたりする。田舎の中で子育てできるのは豊かな時間だったと今になって思うんです。

＞赤坂：
吉田社長はどうですか？

＞吉田社長：
我々も新卒の採用を8年くらい前から始めていますけど、若い方の話を聞いていると意外とキャリア志向が強いと思います。そして1つの会社に長く勤め続けるというよりは、短いサイクルで考えている方が多いなと。社歴が長い方は、経験豊富で知識もあって、社風を安定させる効果があるということで、10年・20年で永年勤続表彰を実施しているんですけど、5年になりませんかという声が社内であがったりと、感覚が変わってきているんです。5年で表彰していいのかは分かりませんが、意識は変えないといけないと思いました。あとは休みの数ですかね。やっぱりワークライフバランスもちゃんと考えないと、人を採れないなと感じています。

物流 frankly speaking

トラック運送業・物流業界と聞いて思い浮かぶ言葉とは？

＞赤坂：
次のテーマ、物流業界のイメージについて。フリップに「トラック運送業・物流業界と聞いて思い浮かぶ言葉」を書いてください。その理由もお願いします。

＞宗形：
「一人仕事がメイン」と書きました。運送業と言えばやはりトラックで、長い距離を運転するというのが第一印象です。基本一人で仕事していると思ってこの言葉を選びました。倉庫でもあまり大人数じゃなくて、それぞれの仕事を順々にこなしているイメージです。

＞梨本：
「夜間の運転」です。自分も車を持っていて、夜、国道4号線とか走るんですけど、昼間は見かけない大きいトラックがすごく走っていて。すごく遠いところのナンバーを見て「この時間帯をメインに働く人たちがいるんだな」と印象的だったのが思い出されます。
もし自分がやるとなったら、その分家族といられないマイナスなイメージはありますが、消費者としては昼間渋滞とかある中で、夜走っていただけているのはありがたいことだと思うので、どの視点から捉えるかによって印象もちょっと違うかなと思いました。

＞宗形：
実はいとこがトラックドライバーをしているんですけど、「結構一人で仕事ができるから自由度が高い」と聞いていて、プラスの印象もあります。一人で裁量を持ってやれるからいいのかな、みたいなイメージです。

＞高橋部長：
わたしは「やばい」と書きました。私も、元々この業界の人間ではなかったので、最初は運送業界や物流に対してあまり良いイメージはなかったです。夜間煽られたりしないの？とか。正直、今もありますし、怖い思いもします。だからこそ、「こんなんだから運送業界は悪く見られるのよ。どうしてくれんだよ」って腹立たしい思いもあるんですけど。だから、そういうものをひっくるめて「やばい」ですよっていう。

＞野村：
力仕事や、重いものを運んだりとか、荷物があってこその運送業だと思うので。荷物をトラックに積み込んで、積み込んだものは降ろす力が必要になってくるなということで、「力」と書きました。ただ、実際女性ドライバーさんも弊社に2名ほどいて、女性だから重いもの持てないのかと言われたら、別にそうでもなくて。着いた場所の方が手伝ってくださることもあります。もちろん一人の時間もあるんですけど、意外と、人と人とのつながりもある仕事かなとは思います。

＞吉田社長：



私は、業界経営者の立場から［∞（領域無限大）］。これを思っていないとやってられないというのもあります。新しく会社に入った方に「同業者はどこだと思う？」って質問したときに、「Amazonですかね？」って言う方がいたんですね。当然ああいう物流持ちながら販売している卸みたいなところもそうですが、トラック、倉庫、港の港湾地区、船会社、航空貨物、それから引越。サードパーティロジスティクスですが、ああいう物流の受託も、みんな同じ領域でやってるんですけど、それぞれやりようがある。やり方次第で伸びていける。そういう意味で無限大の業界・領域だというふうに、ポジティブに捉えています。

＞田母神専務：



私は、基本的に人として生活していくためのいわゆるサプライチェーンですね。世界中が連鎖するという意味では、ものも食料品も、日本国内の自給率を考えれば肉や小麦、あらゆるものが生産国から船などいろんな媒体を使って国内に入って、その後加工されて消費者に回る。産業のいろんな構造物も、基本的に部品を作るところ、組み立てるところ、すべて今、世界中がサプライチェーンでつながっているからこそ、今、戦争みたいなことに端を発して燃料危機になった瞬間に、世界中が大混乱を起こす。その中枢にいるのが物流なので、滞りなく届けることが世の中の平和や、安心して生活できる環境を作ることにつながるんだろうなという、漠然としたイメージは持ってます。国内でもサプライチェーンがものすごく綿密に組まれていますので、一言ではなかなか言い表せなかったんですが、やっぱり「基盤の礎」なんだと思います。

＞吉田社長：
日通で「ウィズ・ユア・ライフ」というキャッチフレーズを昔やってたんですよ。まさにあの通りだなと思って。「ファインド・ザ・ウェイ」の前の「ウィズ・ユア・ライフ」が物流だと思ってます。

＞赤坂：
運送業界に対して、自分たちでそう思っているというよりは、世の中からどう見られているかという視点ですね、客観的な視点を持って書いたと。そんな物流業界なんですけど、じゃあ学生さんが抱くイメージってどうなの？ということですが…



学生さんが抱く
トラック運送業・物流業界のイメージとは？
次号につづく

トラック運送業・物流業界
魅力発信座談会参加者

宗形 杏美 様
福島大学 行政政策学類 岩崎ゼミ４年

梨本 涼太 様
福島大学 行政政策学類 岩崎ゼミ４年

吉田 雅弘 様
(株)須賀川東部運送 代表取締役

高橋 千加子 様
伊達貨物運送㈱ 部長

野村 華花 様
伊達貨物運送㈱ 事務

赤坂 利彦 様
信栄商事㈱代表取締役
特定社会保険労務士・特定行政／ファシリテーター

田母神 正広
福島県トラック協会 専務理事／オブザーバー